



学校だより

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
- 「徳」 自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
- 「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
- 「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
- 「関」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和4年4月28日
横浜市立菅田の丘小学校

校長 若山 京子

5月号

〔皐月 May〕

平和について考える

校長 若山 京子



木々の緑はどんどん深まり、丘に吹く風がさわやかに薫る季節となりました。晴れた日には元気よく校庭で遊ぶ子どもたちです。新年度が始まり早くも1カ月が経とうとしています。1年生は少しずつ学校に慣れ、校内を探検しながら「これはなんだろう?」「この部屋はなにをするところ?」と、学校のいくつもの「?(はてな)」を見つけ、友達と力を合わせて解決しようと取り組んでいます。また、2年生から6年生のそれぞれの学級では、「字をていねいに書く」「算数の勉強をがんばる」など自分の目標を立てたり、「明るく楽しい学級にしたい」「最高の学級にしたい」など、どんな学級にしたいか子どもたちが意見を交わしたりしています。自分の立てた目標や、クラスみんなで決めた学級目標を達成できるよう、教職員一同、子どもたちのやる気を後押しし、活動を支えてまいります。

さて、世の中の新型コロナウイルス感染についてはまだ厳しい状況が続いていますが、2月末以降、新聞やテレビでは、現在世界で起きている戦争についての報道が、感染状況にとって代わり毎日トップニュースとなっています。日々届く映像で、戦地の状況が伝えられます。平和な日本に住む私たちにとって、戦争はあまりにも日常とかけ離れているため、ニュース映像は何だかドラマや映画と錯覚してしまいがちです。けれども、破壊された建物、ある日突然日常を、命すらも奪われる多くの市民の様子、泣きじゃくる子どもの映像に胸が詰まります。海の向こうの遠い国で実際に起きている悲惨な出来事に関心をもち、戦禍に苦しみ悲しむ人々に、思いを寄せることが大切なのだと思います。

子どもたちには、ニュースを見聞きして心が辛くなりすぎることのないよう、大人が配慮する必要があります。でも、戦争の恐ろしさ、当たり前にある平和の尊さを、子どもたちには感じてほしいと思います。悪いのは誰か、ではなく、どうしたら武力や暴力による争いを避けることができるのかを、考えることが大切ではないかと考えます。偏見や差別を無くし、多様な考えをもつ様々な国の人々が手を携えて、平和な未来を築いていくために、日々の生活の中で何ができるのか、どうすればいいのかを子どもたちとともに考えていきたいと思えます。

